

協議事項2

日本語指導が必要な外国人生徒の高校受検にあたっての配慮事項について

平成19年8月20日  
高等学校課

区分	一般入試		推薦入試	
	現行	変更案1	現行	変更案2
受検枠	一般枠（他の受検生と同じ定員枠）	特別枠（外枠）	一般枠	特別枠（外枠）
対象校	全校（24校）	（同左）	22校46学科12コース	（同左）
受検科目	5教科（国、社、数、理、英） ・学力検査：時間延長、問題文のルビうち、辞書の特込可 ・面接：個人面接への変更、面接時間の延長、面接官の配慮可 ・作文及び実技検査：分かりやすい表現での実施、検査時間の延長可	3教科（国、数、英） ・各教科の受検への配慮は現行通り ・定時制課程は現行の3教科（国語と生徒が選択した2教科）	面接又は口頭試問、作文又は小論文、実技検査 ・一般入試と同様の配慮可	（同左） ・必要に応じて、母国語（英語）や母国語まじりの解答を認める
合否判定	・本人が <b>成業の見込み</b> があるかどうかも考慮して判定する ・今後見込まれる日本語能力の伸び等も判断材料とすることができる ・他の受検者の選抜状況も勘案して判断する	・本人の <b>関心・意欲と成業の見込み</b> があるかどうかを基準に判定する	（現行の一般入試に同じ）	・本人の <b>関心・意欲と成業の見込み</b> があるかどうかを基準に判定する
課題	・他の受検者との平等性・公平性の確保	・成業の見込みの判断	（現行の一般入試に同じ）	・成業の見込みの判断
メリット →○ デメリット →▲	▲日本の言語や歴史・文化等の知識が十分でなければ学力検査で点が取りにくい（特に国語、社会、理科） ▲今後の日本語能力の伸びの判断が難しい	○学力検査の負担軽減 ○日本と母国の言語や文化等との違いによる影響を受けにくい  ○全校の受検が可能 ▲成業の見込みの判断が難しい	○一般入試に比べ、受検生の負担軽減	○日本語能力の影響を受けにくく、関心・意欲を測り易い ▲受検校が限定される ▲全ての母国語に対応することが困難 ▲学力検査がないため、成業の見込みの判断が一般入試より更に困難

\* 特別枠を外枠にする理由：他の日本人生徒の合否判定に影響を受けない、与えない。

\* 推薦入試における推薦要件：（ア）目的意識が明確で、当該学校、学科及びコースを志望する動機・理由が明白・適切である者。  
（イ）意志が強固で当該学校、学科及びコースに対する適性及び興味・関心を有する者。  
（ウ）当該学校、学科及びコースの教育課程に熱心に取り組み、かつ十分に成業が見込める者。